2024年度文学部プロジェクト研究シンポジウム

岡山大学
OKAYAMA UNIVERSITY

「神格化をめぐる表象と文化」

歴史上さまざまな地域、社会において神格化は図られてきた。支配者の権威づけのみならず、特別な力を持つ神性を帯びた存在として人間が神格化される例は古代から現代に至るまで普遍的に存在する。本プロジェクトでは、人間社会に潜む「神格化」という現象に対し、分野を横断した人文知を集積し、さらなる研究へと展開させるための土台を築くことを目標とする。シンポジウムでは、古代ギリシアでみられた人間の神格化をはじめとし、社会主義国で権力者の遺体が防腐処理され崇拝の対象となっている例、力士や武将の手形が疫病除けの力を秘めるものとみなされるように変化していった例などを取り上げる。

14:30-15:30 基調講演　長田年弘(筑波大学名誉教授)

「古代ギリシアの神々と表象
—聖地オリュンピアにおける運動競技者の神格化—」

15:30-15:40 休憩

15:40-16:40 パネルディスカッション・質疑応答

遊佐 徹(中国文学)
吉田 浩(ロシア史)
松岡 弘之(日本近現代史)
大久保 範子(日本美術史)

2024年12月14日(土)

岡山大学津島キャンパス 文法経20番講義室

※事前申し込み不要、どなたでもご参加いただけます

問い合わせ：大久保範子 p7z67nyc@okayama-u.ac.jp

※駐車場(有料)に限りがあるためできるだけ公共交通機関をご利用ください